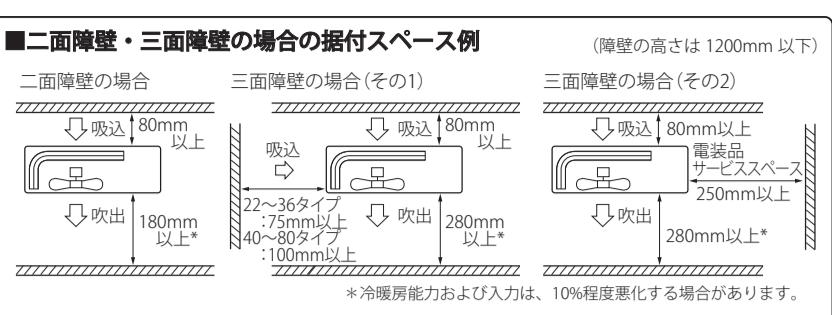


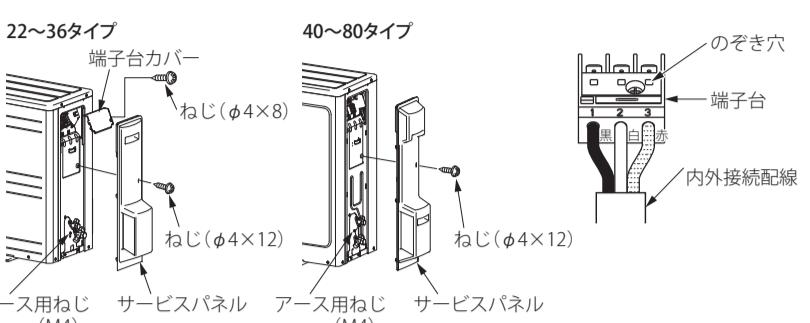
9. 室外ユニットの設置と配線接続

室外ユニットは水平に据え付けてください。

- ユニット脚部はガタつかないよう頑丈な台等に固定してください。
- 高所や強風が当たる所や転倒や落すおそれがある場所に設置する場合は、基礎ボルトやワイヤー等で室外ユニットを固定してください。
- 屋上や高所に据え付ける場合は、通路にハシゴや手すり等、室外ユニット周辺にフェンスや手すり等を設けてください。
- 吸込口および吹出口に壁等の障害物がある場所に据え付ける場合は、右記に従ってください。



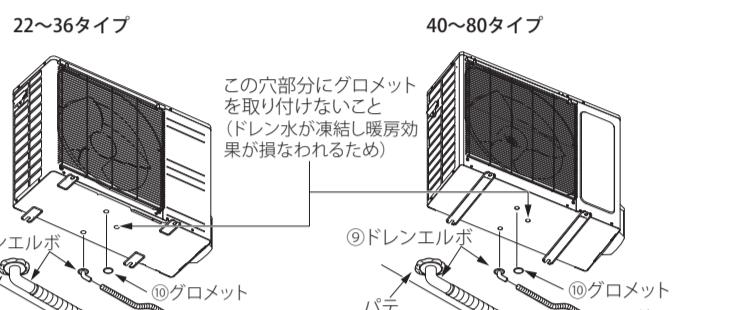
- 内外接続配線の被覆を18mmむく。
- ねじを外し、サービスパネルを取り外す。
- ねじを外し、端子台カバーを取り外す。(22~36タイプのみ)
- 内外接続配線を端子台に接続する。
 - 内外接続配線は、端子台の奥までしっかり挿入してください。
 - のぞき穴から心線が見えることを確認してください。
 - 内外接続配線は室内ユニットの端子番号に合わせて接続してください。
- 端子台カバー、サービスパネルを取り付ける。



10. 室外ユニットのドレン工事

設置状況、お客様の要望を確認し、ドレン工事の要否を判断してください。⑨ドレンエルボ、⑩グロメットの周りをバテ、コーティング材等でシールし、ドレンホース(現地手配)を接続してください。ドレン工事を行わない場合、ドレンエルボ・グロメットをお客様に渡してください。

■お願い
寒冷地ではドレン水が凍結するため、ドレンエルボ・グロメットは取り付けないでください。室外ユニットのドレン水は、たれ流しにしてください。
※寒冷地：日中でも0℃以下の日が2~3日連続する地域



11. アース工事

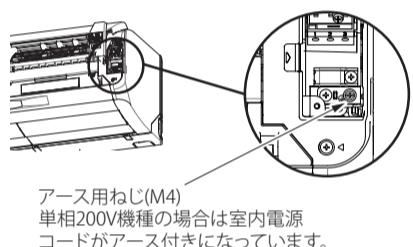
アース工事や漏電しや断器の取り付けは、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」に従ってください。

接地の基準は、エアコンの電源電圧および設置場所により異なります。

電源の条件	設置場所	水気のある場所	湿気のある場所	乾燥した場所
対地電圧が150V以下の場合	100Vの機種 (含単相3線式 200Vの機種)	D種接地工事 (第3種接地工事) は法的には除外されますが安全のため接地工事をしてください。		
対地電圧が150Vを超える場合	三相200Vの機種 (含単相3線式 200Vの機種)		漏電しや断器を取り付けさらに第3種接地工事が必要です。	

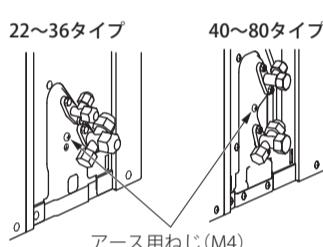
1. 室内アースを取り付ける。

- 端子台カバーを取り外す。(5項参照)
- アース線をアース端子に接続する。



2. 室外アースを取り付ける。

- サービスパネルを取り外す。
- アース線をアース端子に接続する。



14. 試運転と確認

必ず試運転を行ってください。

試運転前や試運転中、工事完了後にチェック項目を確認して、確認済みの項目について□の中に印を記入してください。

① 試運転の前に

- 電源プラグを電源コンセントに差し込む前に、電源電圧を測定する。
- 室内ユニットに空気清浄フィルターを取り付ける。(詳細は取扱説明書参照)
- リモコンに乾電池を入れ、設定を行う。(詳細は取扱説明書参照)

試運転前に次のことを確認してください。

電源	
1	電源は専用回路を設けているか。
2	電源電圧は製品仕様と合っているか。
3	電源コンセントとプラグに「ガタ」はないか。
4	電源コードの切断やより線接続等の加工はしていないか。
5	延長コードやタコ足配線していないか。
6	電源コードを極度に折り曲げたり、束ねたり、ステッブルで固定していないか。
7	電源コードを室内ユニット本体等で圧迫していないか。
内外接続配線	
8	内外接続配線は所定のケーブルを使用しているか。
9	内外接続配線は途中接続をしていないか。
10	内外接続配線の皮むき長さは規定の寸法通りか。
11	内外接続配線の端子台への挿入・固定は確実か。

アースと漏電しや断器	
12	アースの接続は確実か。
13	漏電しや断器は設置してあるか。
冷媒回路	
14	操作弁は全開にしたか。
15	内外接続配管部からの冷媒漏れはないか。
ユニット・後処理	
16	室内ユニットは据付板にガタなくはめ込まれているか。
17	据付場所の強度は十分で、騒音や振動が増大しない場所か。
18	内外接続配管部の断熱をしたか。
19	壁穴部のシールは確実にしたか。
20	ドレンホースの固定は確実か。
21	空気清浄フィルターは取り付けたか。
22	梱包材やテープ類はすべて撤去したか。

■ エアフィルター位置の自動調整について
電源投入時および吸込パネルを開いたときは、数秒～3分間エアフィルターの位置を自動調整します。(フィルター清掃ランプ(緑)が点灯します)。この間はエアコン運転ができません。フィルター清掃ランプが消灯したら、運転を始めてください。

3. 約20分運転し、次のことを確認する。

確認項目	
1	吹出口から冷風または温風がでているか。
2	フラップ・レバーバーは正常に動作しているか。
3	ドレン水の排水は確実か。
4	室内・室外ユニットから異常音はないか。
5	本体表示ランプの点灯は正常か。
6	リモコンの信号は受信したか。
7	リモコンの表示は正常か。

4. リモコンの停止ボタンを押し、運転を停止する。

■ 3分間再起動防止タイマーについて
エアコンを再起動するときや運転を切り換えたときは約3分間運転を始めません。これは本体の保護のためで故障ではありません。

② フィルター清掃動作の確認を行う

リモコンのフィルター清掃ボタンを押して、フィルター清掃が正常に終了することを確認してください。(詳細は取扱説明書参照)

③ 試運転を行う

△注意

- 新築やリフォーム等の内装工事で床面にワックスをかけたときは試運転をしない。ワックスをかけた後は、窓やドアを開けて十分に換気をした後、試運転を行う。(ワックス等の揮発成分がエアコン内部に付着し、水漏れ・水飛びの原因)

1. リモコンの冷房ボタンまたは暖房ボタンで運転を開始する。

2. 温度設定ボタンで次のように温度を設定する。

冷房の場合 18°C 暖房の場合 30°C

④ 試運転の後に

お客様にご使用方法・お手入れの仕方等を説明してください。

確認項目	
1	お客様に取扱説明書に従って使用方法とお手入れの仕方について説明したか。
2	お客様に保証書・取扱説明書・据付説明書を渡して、保管いただくように説明したか。
3	お客様に工事内容について説明したか。
4	お客様に連絡先を伝えたか。

12. 配管の接続

!重要

配管セットを使用する場合

- R32またはR410A用配管セットを使用してください。R22の冷媒用配管セット(肉厚が0.8mm未満の薄肉配管)は耐圧強度が足りないため、絶対に使用しないでください。
- 冷媒種: 2種、対応冷媒名: R32またはR410A、銅管口径×肉厚: 6.35×0.8 / 9.52×0.8 / 12.7×0.8
- この配管セットで、フレアナットが付き、フレア加工されているものは、そのまま使用できます。

① 配管の準備(フレア加工)

- エアコン本体からフレアナットを外す。



- パイプカッターで配管を切断する。

切断面は直角にする。

- バリ取りする。

切り粉が配管に入らないように配管を下向きにして行う。ゴミ、砂等の異物が入らないように切面をテープでふさぐ。

- フレアナットを接続配管に挿入し、フレア加工する。

銅管径	A寸法(mm)
液側 φ6.35	9.1
ガス側 φ9.52	13.2
ガス側 φ12.7	16.6

- 加工後、フレア内部に傷がないこと、真円に加工されていることを確認する。

② 配管の接続

- フレアナットを手で仮締めする。

- トルクレンチを使って、既定の締付トルクで締め付ける。

(フレアナットを締め付け過ぎると、長期経過後、フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。)

- 冷媒配管の防露断熱工事を行う。

(防露断熱工事を確実に行なないと、水漏れ・露たれし家財等を濡らす原因になります。)

一般的の銅管を使用する場合

- JIS H 3300「銅および銅合金継目無管」のC1220タイプ(フレア加工が必要です)。付着量: 40mg / 10m以下
- 配管肉厚: 0.8mm
- フレアナットは、エアコン本体付属のものを使用してください。

△注意

● フレア面への冷凍機油塗布は行わない。

(結付トルクが過大となり応力腐食割れが起こり、冷媒漏れの原因になります。)

■ フレアツールについて

R32、R410A用またはR22用のフレアツールを使用してください。それぞれのフレアツールで出し代Bの寸法が異なりますので、注意してください。R22のフレアツールを使用する場合、出し代調整用銅管ゲージを使って、B寸法を確保してください。

銅管径	B寸法(mm)

<